

# 愛宕中学校第3学年 社会科（公民）「民主主義と日本の政治」

【本時（3/11）の評価規準】

社会的な思考・判断・表現

模擬選挙を通して、現在の選挙課題をふまえ、既習事項や話し合った内容をもとに、どのような意識で選挙に臨むべきか、自分の言葉で適切に表現している。

## 生徒の主な活動

### 1. 学習課題を確認する

**学習課題** 模擬選挙を通して、日本の現状から選挙に参加することの大切さを考えよう

### 2. 模擬選挙を行う

- (1) 自分の与えられた立場を踏まえて、候補者を選ぶ。
- (2) 選んだ理由をワークシートに記入する。

主体的な学び

### 3. 選挙結果から、気づいたことを話し合う。

- (1) 投票結果に差が出たのはなぜか、意見を交流する。
- (2) 投票結果から見える日本の社会の現状について、意見交流する。

対話的な学び

### 4. 学習課題について自分の言葉でまとめる。

- (1) 選挙権が引き下げられたのはなぜかを考え、「私たちはどのような思いで選挙に臨むべきか」について、自分の言葉で文章にまとめる。
- (2) 班の中で発表する。

### 5. まとめ

(板書計画)

<b>学習課題</b>		模擬選挙を通して、日本の現状から選挙に参加することの大切さを考えよう	
○ 投票してみよう！		○ 投票結果から	
A党 鈴木 豊	B党 吉田 久美	C党 前田 達也	・ ・ ・
			※出てきた意見を板書
投票結果			○ まとめ

## 生かしたい知識・技能

- ・知識：地理的分野 「世界からみた日本のすがた」 過疎地域、少子高齢化
- 歴史的分野 「近代の日本と世界」 自由民権運動 帝国議会の開設 社会運動の始まり
- 「二度の世界大戦と日本」 民衆運動 社会運動の高まりと普通選挙（選挙権獲得の歴史）
- 公民的分野 「私たちの暮らしと現代社会」 少子高齢化社会
- 「人間を尊重する日本国憲法」 人権思想の歴史 日本憲法の基本的な考え方 社会権
- ・技能：資料から課題について考え、さらに関わりを通して思考を深める。

## 言語活動充実のポイント

- ・社会的事象の意味や意義、事象間の関連などを理解し、自分の言葉で表現する活動を大切にする。
- ・既習事項と新たに身につける知識と関連づけて考えさせ、社会的事象に対して多面的・多角的に考え、自分の言葉で文章にまとめる。

## 言語活動充実のための教師の主な働きかけ

立場カードを元に、自分が投票する候補者を決定しよう

・なぜその候補者を選んだのか、理由や根拠を明確にするように声かけをする。

投票結果から気づいたことを話し合おう

- ・なぜそう思ったか、理由や根拠を元に意見を出させる。
- ・投票結果から見える日本の社会の現状を既習事項と関連づけて考えるよう声かけをする。
- ・生徒の考えを板書する。

学習課題に対する自分の意見を文章にまとめよう

- ・主権者として主体的に考え、自分の言葉でまとめさせる。
- ・班で発表し合い、他者の意見を聞いて、自分の考えを深めさせる。

## 実践を振り返って

政治に関する学習は、用語や概念が難解なこともあり、抵抗感や不安感を示す生徒も多くいるなかで、いかに自分事として考えるかがテーマである。今回授業を実施するにあたって、好都合だったのは、実際に衆議院が解散をし、総選挙が行われるという、実にタイムリーな内容になったことである。生徒はニュースで、いやでも毎日のように耳にすることになった。1年次より、新聞記事を使用し、社会の動きに関心を持つよう取り組んできたが、この単元ではさらに新聞記事やニュースなどを取り上げるようにした。その結果、学校だけでなく家庭や友人との会話の中でも政治について語る場面を目や耳にすることになった。

本時の授業で一番頭を悩ませたのは学習課題であった。授業者として、この時間で生徒につかませたかったのは、「選挙権を行使することの重大さ」である。地理の分野で学んできた日本の抱えている社会問題や歴史の分野で学んできた市民がさまざまな権利を獲得してきた背景など、今まで学んできたことを踏まえ、「一票投じることの重さ」に気づいてほしいということであった。もちろん主権者として、いろいろなしくみや考え方を知識として理解することも大切だが、なぜ選挙権があるのか、なぜ選挙に行くことが大切なのか自ら考え、自分事としてとらえてほしいとの思いがあった。しかし、そう考えるためにどのような学習課題を設定すれば、生徒自ら疑問や課題を持ち、探究するのかなか答えが出なかった。

授業を終えて、大半の生徒が「今までは選挙に行っても行かなくても関係ない。変わらないと思っていたが、18歳になったら選挙に行こうと思う。」という意見をワークシートに記入していた。もちろん、主権者教育の第一歩であって、この授業だけでは不十分であるが、この授業が考えるきっかけになったことは一つの成果であると思う。